

神門5号墳及び神門瓦窯跡(市原市)

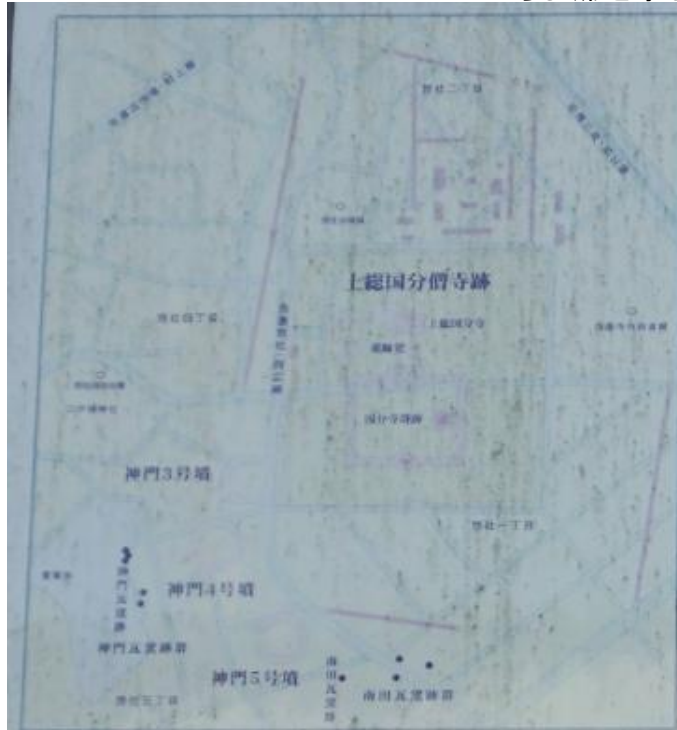
正面が神門5号墳



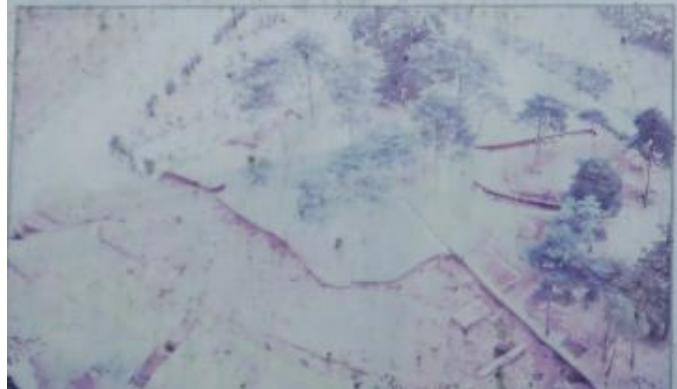
弥生時代終末期の弥生墓から古墳へ移り変わる時期に造られたと考えられている



いちじく形と呼ばれる墳形で、前方後円墳が定型化する以前の古墳の様相を示しているという



神門5号墳位置図



5号墳



4号墳



3号墳



千葉県指定史跡
神門5号墳

所在地 市原市惣社五丁目五番地一
指定 平成元年三月十日

神門5号墳は、養老川下流の沖積地を望む台地先端に造られた古墳で、北側には3・4号墳があり、神門古墳群を形成していました。昭和二十三年に発掘調査が行われ、墳頂部直下から埋葬施設が確認され、鉄剣・鉄鏃・ガラス玉・土器等が出土しました。その後、昭和五十八年に国分寺台土地区画整理事業に伴って、改めて発掘調査が実施されました。

古墳は、直径三メートル、高さ五メートルの円形の墳丘と、その西側に張り出した長さ五・五メートル、幅五メートルの突出部を持った全長三・八・五メートルのいちじく形をした墳形で、周囲に幅六メートルの周溝をめぐらせています。このような墳形は、前方後円墳が定型化する以前の古墳の様相を示しています。また、埋葬施設から出土した土器には、弥生時代後期(三世紀頃)の土器や、北陸地方あるいは近畿地方と直接関連がある土器が含まれていました。この結果、神門5号墳は弥生時代終末期の弥生墓から古墳へ移り変わる時期に造られたことがわかりました。

このように、神門5号墳はわが国の古墳発生及び前方後円墳の起源を考える上で極めて重要な古墳です。
平成十五年三月
市原市教育委員会

墳頂を見る



左手前方が神門5号墳



墳頂を見る



墳頂を見る



墳頂を見る



墳丘斜面



この辺りが神門瓦窯跡





ここは国指定史跡
上総国分寺跡
神門瓦窯跡
です
市原市教育委員会



溜池の対岸から神門瓦窯跡を見る







